

株主の皆様へ

第53期 中間報告書

2019年4月1日～2019年9月30日

株式会社 **オービック**

証券コード:4684

時代の変化を見極め、社会やビジネスに 新たな価値と解決策をお届けしてまいります。

株主の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素より格別のご支援を賜り、心よりお礼申し上げます。当社の第53期中間期(2019年4月1日～2019年9月30日)の事業概要および実績をご報告するにあたり、ひと言ご挨拶申し上げます。

本年5月1日、平成から令和へと元号が改められ、文字通り新たな時代を迎えました。社員一同、新たな目標と課題を掲げまい進した結果、当中間期の連結業績は、売上高・営業利益・経常利益・当中間期純利益いずれも過去最高の実績となりました。当社は、各業界の変化を絶えず注視し、求められる情報システム・情報サービスをお届けしてまいりました。現在のビジネス・経営を取り巻く環境は変化が激しく、かつその変化はますます加速しています。企業が成長・発展を続けていくためには、絶えず課題と向き合いながら、最新の技術・ノウハウを取り入れ、スピード感のある改善・改革を継続していくことが不可欠です。

創業以来の「お客様第一主義」のもと、当社は、個々のお客様のニーズにきめ細かくお応えし、当中間期も最新のソリューションをお届けしてまいりました。特に、当社のクラウドセンターでアプリケーションからインフラまでを一括でご提供する「OBIC7クラウドサービス」は、安全性の高いネットワーク環境を通じて短期間にソリューションを導入でき、運用コストの削減、ビジネスのスピード化や事業継続対策にも寄与する仕組みとして高い評価をいただきました。

このクラウドサービスは、新規のお客様、既存のお客様からの引き合いが着実に増加しており、今期の重点営業戦略として、クラウド化をさらに強力に推進してまいります。また産業界では、昨年、経済産業省が「DXレポート」で指摘した、IT技術者不足や旧態依然のシステムが限界を迎える「2025年の崖」問題をいかに乗り越えるかが大きな課題となっています。当社のクラウドサービスや、昨年開設したお客様企業向けの研修センターは、情報システム刷新や人材不足に悩むお客様企業の課題解決にも、大きく貢献できることと自負しております。

新たな令和時代への期待が高まる中、オービックは常に変化の先を見据え、既成概念を打破し新たな価値を創造する挑戦とイノベーションに力強く取り組んでまいります。今後とも、倍旧のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役会長／CEO

野田 順弘



代表取締役社長／COO

橋 昇一

中間決算ハイライト(連結)

おかげさまで当中間期も、 過去最高の業績を更新いたしました。

当情報サービス業界においては、働き方改革への取り組みなどを背景に、企業の生産性向上や業務効率化を目的としたシステムの更新投資需要は引き続き高い状態にあるものの、先行き不透明な景況感の中で投資判断には慎重さが見られました。企業のニーズは「効率的でコストパフォーマンスの高い情報システム」にあり、さらなる顧客目線でのシステム提案が求められております。

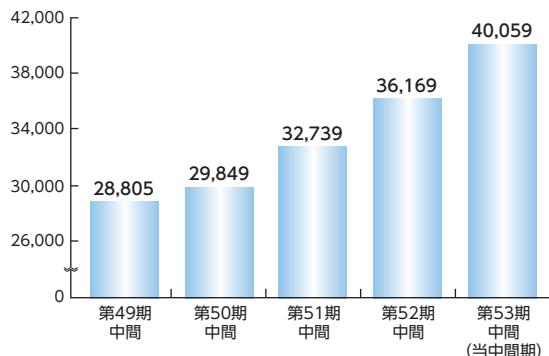
当社は、このような状況の中、自社開発・直接販売にこだわり続け、顧客企業の経営効果を実現するため、製販一体体制のもと顧客満足度を高めるべく努めてまいりました。当社の主力である統合業務ソフトウェア「OBIC7シリーズ」は、会計を中心に統合的に情報を管理するERPシステムとして、様々な業界・業種の企業に幅広く求められました。主な傾向として、大企業向けのシステム構築が引き続き順調に推移しております。業種・業務別のソリューションに関しても、金融業向け、サービス業向け、流通業向け、製造業向け等、業種を問わずシステム構築の引き合いが強まりました。システムの短期導入、早期稼動につながりやすく、グループ全体の最適化やビジネス環境の変化にもスピーディに対応できるとして年々引き合いが強まっているクラウドサービスのニーズにも、自社運営のクラウドセンターでアプリケーションからインフラまで一貫したサービスを提供し対応しております。また、クラウド関連施設の設備増強やセキュリティ・サービス強化、顧客向け研修施設の拡張など付加価値向上につながる先行投資も継続して進めてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の連結業績は、売上高400億59百万円(前年同期比10.8%増)、営業利益216億56百万円(同16.4%増)、経常利益は237億79百万円(同15.2%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は191億47百万円(同21.6%増)となりました。

今後も当社は、顧客第一主義のもと、よりコストパフォーマンスの高いシステム提案ビジネスに注力し業績の向上に努めてまいり所存であります。

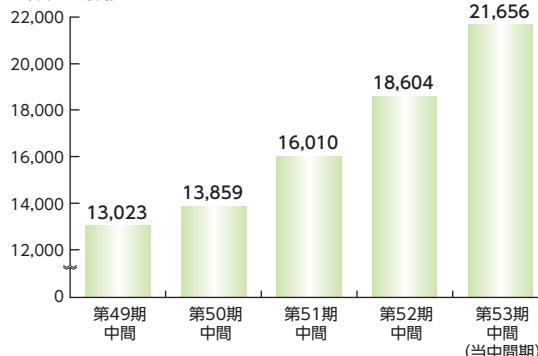
売上高

(単位:百万円)



営業利益

(単位:百万円)



オービック1社でお客様に満足をお届けする。 独自のビジネスモデルをさらに充実。

◎ お客様の成長、新たな事業展開をサポート

IT業界に存在してきた多重下請け構造に一石を投じたのが、オービックの「ワンストップ・ソリューション・サービス」です。創業以来、当社は「お客様第一主義」を掲げ、自社開発・直接販売に徹し、コンサルティングからシステム構築・導入後の運用・サポート、情報システム全体を支えるクラウド環境のご提供までのすべてを自社一貫体制で行うとともに、その内容も年々拡充させてきました。この当社独自のビジネスモデルは、激しさを増す環境変化への対応や新規事業展開に伴う情報システム再構築など、昨今のスピードが要求される企業の情報改革に応える解決策としても注目を集めています。



クラウドセンター

◎ ビジネス全般を支えるオービッククラウド

セキュアなネットワーク環境を介して情報システムを活用することで、導入コストの軽減、システムの短期導入・早期稼動にもつながるクラウドサービスが、活況を呈しています。中でも経営基幹システムをお客様専用のプライベート型で提供する「OBIC7クラウドサービス」は、今期も幅広い業種のお客様から厚いご支持を得ています。経営の効率化、スピード化、BCP(事業継続)対策に不可欠のソリューション・サービスとして高い評価をいただいています。

主力製品／統合業務ソフトウェア「OBIC7シリーズ」

選ばれて、国内ERP累計導入社数17年連続No.1^{*}
主力製品の「OBIC7シリーズ」が販売実績を伸ばしました。

1 ワンストップ・ソリューション・サービス

自社開発・直接販売・自社一貫サポート。オービックが築き上げた真の「ワンストップ・ソリューション・サービス」が、大きな安心と満足をお約束します。

2 経営効果

会計情報を軸に経営効果の最大化に貢献。お客様の企業利益を徹底追求します。

3 スピード稼動

短期間に「OBIC7シリーズ」を導入可能。事業拡張にも柔軟かつ迅速に対応できます。

4 お客様専用で安心

お客様専用のプライベート型クラウドを採用。個々のお客様のご要望に柔軟にお応えできるとともに、セキュリティ面でも安心です。

5 万全のBCP対策

データセンターを並存させる複数リージョンでの堅牢なデータ保全。設備・機器の多重化等により、常に安定したシステム稼動をサポートします。

^{*}2002年～2018年主要ベンダー（ライセンス売上高シェアトップ10）における累計導入社数（株）矢野経済研究所「ERP市場の実感と展望」2018年12月現在



ERP累計導入社数



恒例の情報システムセミナーを開催。 独自技術の特許化で付加価値を向上。

◎ 自社開催のセミナー、社外イベントなどで 最新情報を発信、積極的にPR

6月には、恒例の「オービック情報システムセミナー夏」を、東京を皮切りに横浜・名古屋・大阪・京都・福岡の全国6都市で開催。その他「消費増税対策セミナー」などの個別セミナーを随時開催。いずれも多数のご来場者で賑わいました。同時に「会計EXPO」など外部イベントにも積極的に参加、最新ノウハウをアピールしました。

また、オービック東京本社に隣接するビル「京橋エドグラン」(東京都中央区)内に、2018年に開設したお客様企業向けの研修センターを増床・拡充。導入システムの早期稼働やユーザー習熟度の早期向上を目的とした当施設は、初年度で約2万人にご利用いただいております。今後、東京・大阪でさらに拡充を計画しています。



情報システムセミナー

◎ 独自のノウハウ・技術の特許化を推進 システムの付加価値を向上

当社は、長年にわたり様々な業界の経営課題を解決する活動を通じ、多くの独自ノウハウ・技術を開発し、数多くの特許を取得してきました。過去5年間のIT業界では、1社あたりの平均出願数は年間10件前後ですが、オービックは業界平均を大きく上回る特許出願を行っております。特に金融・決済に関する特許、経営管理・業務管理システムに関する特許が多いのが特徴です。また、この特許化の取り組みは、一部メディアでも紹介され、多くのお客様から、問合せをいただきました。

今後もシステム開発や直接販売で蓄積したノウハウの「ビジネス特許」化を進め、お客様へ提供するシステムの付加価値を高めてまいります。



特許証

営業の概況

当社グループは、株式会社オービック(当社)および連結子会社1社ならびに関連会社3社等により構成されており、事業は主に企業情報システムのシステムインテグレーション(SI)事業、システムサポート(SS)事業、オフィスオートメーション(OA)事業および業務用パッケージソフト(PKG)事業を行っております。

なお、業務用パッケージソフト(PKG)事業については、関連会社で行っているため、事業のセグメントには含まれておりません。

◎ システムインテグレーション(SI)事業

売上高

202億99百万円

前年同期比 6.5% ↑

営業利益

104億86百万円

前年同期比 7.1% ↑

主力の統合業務ソフトウェア「OBIC7シリーズ」は、統合的に情報を管理するERPシステムとして、様々な業界・業種の企業に求められました。主な傾向として、大企業向けのシステム構築が引き続き順調に推移しております。

この結果、外部顧客に対する売上高は、202億99百万円(前年同期比6.5%増)、営業利益は104億86百万円(同7.1%増)となりました。



◎ システムサポート(SS)事業

売上高

150億35百万円

前年同期比 15.6% ↑

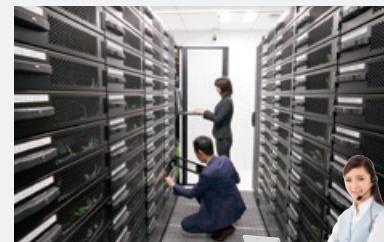
営業利益

103億16百万円

前年同期比 26.8% ↑

主力サービスであるシステムの「運用支援サービス」および「クラウドソリューション」が好調に推移いたしました。

この結果、外部顧客に対する売上高は、150億35百万円(前年同期比15.6%増)、営業利益は103億16百万円(同26.8%増)となりました。



クラウドセンター

◎ オフィスオートメーション(OA)事業

売上高

47億23百万円

前年同期比 15.2% ↑

営業利益

8億53百万円

前年同期比 26.5% ↑

業務用パッケージソフトやオフィス家具の販売が好調に伸長したに加え、印刷サプライやオフィス用品の販売も堅調に推移いたしました。

この結果、外部顧客に対する売上高は、47億23百万円(前年同期比15.2%増)、営業利益は8億53百万円(同26.5%増)となりました。



連結財務諸表

中間連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

| 科目 | 期別 | 前期中間期 | |
|-------------|----|----------------|----------------|
| | | (2019年3月31日現在) | (2019年9月30日現在) |
| 資産の部 | | | |
| 流動資産 | | 131,125 | 132,792 |
| 現金及び預金 | | 119,972 | 120,976 |
| 受取手形及び売掛金 | | 9,626 | 10,387 |
| その他 | | 1,526 | 1,428 |
| 固定資産 | | 113,784 | 123,448 |
| 有形固定資産 | | 47,747 | 55,640 |
| 建物及び構築物 | | 3,012 | 3,056 |
| 土地 | | 27,849 | 27,849 |
| 建設仮勘定 | | 15,788 | 23,601 |
| その他 | | 1,097 | 1,133 |
| 無形固定資産 | | 106 | 111 |
| 投資その他の資産 | | 65,929 | 67,695 |
| 投資有価証券 | | 61,663 | 63,344 |
| その他 | | 4,265 | 4,351 |
| 資産合計 | | 244,909 | 256,240 |

(単位:百万円)

| 科目 | 期別 | 前期中間期 | |
|--------------------|----|----------------|----------------|
| | | (2019年3月31日現在) | (2019年9月30日現在) |
| 負債の部 | | | |
| 流動負債 | | 18,981 | 17,488 |
| 固定負債 | | 7,451 | 7,369 |
| 負債合計 | | 26,432 | 24,857 |
| 純資産の部 | | | |
| 株主資本 | | 212,752 | 225,005 |
| 資本金 | | 19,178 | 19,178 |
| 資本剰余金 | | 19,530 | 19,530 |
| 利益剰余金 | | 196,183 | 208,437 |
| 自己株式 | | △ 22,139 | △ 22,140 |
| その他の包括利益累計額 | | 5,723 | 6,376 |
| その他有価証券評価差額金 | | 7,553 | 8,144 |
| 土地再評価差額金 | | △ 1,705 | △ 1,705 |
| 退職給付に係る調整累計額 | | △ 124 | △ 62 |
| 純資産合計 | | 218,476 | 231,382 |
| 負債・純資産合計 | | 244,909 | 256,240 |

総資産／純資産



中間連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

| 科目 | 期別 | 前期中間期 | 当期中間期 |
|------------------|----|----------------------------|----------------------------|
| | | (2018年4月1日～ 2018年9月30日) | (2019年4月1日～ 2019年9月30日) |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | 12,363 | 13,526 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | △ 4,711 | △ 5,627 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | △ 6,004 | △ 6,894 |
| 現金及び現金同等物の増減額 | | 1,647 | 1,004 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | | 109,458 | 119,972 |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | | 111,105 | 120,976 |

中間連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

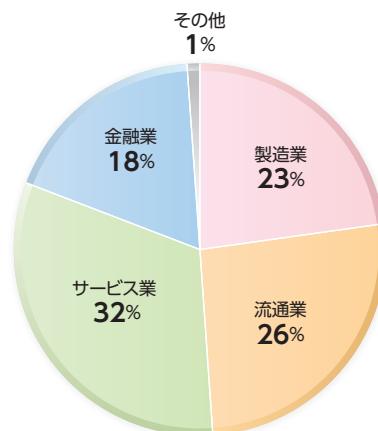
| 科目 | 期別 | 前中間期 (2018年4月1日～ 2018年9月30日) | 当中間期 (2019年4月1日～ 2019年9月30日) |
|------------------|----|------------------------------------|------------------------------------|
| 売上高 | | 36,169 | 40,059 |
| 売上原価 | | 11,087 | 11,997 |
| 売上総利益 | | 25,082 | 28,061 |
| 販売費及び一般管理費 | | 6,477 | 6,405 |
| 営業利益 | | 18,604 | 21,656 |
| 営業外収益 | | 2,095 | 2,190 |
| 営業外費用 | | 63 | 67 |
| 経常利益 | | 20,636 | 23,779 |
| 特別利益 | | 960 | 2,499 |
| 特別損失 | | 0 | 574 |
| 税金等調整前四半期純利益 | | 21,596 | 25,704 |
| 法人税等 | | 5,844 | 6,557 |
| 四半期純利益 | | 15,751 | 19,147 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | | 15,751 | 19,147 |

中間連結株主資本等変動計算書(要旨)

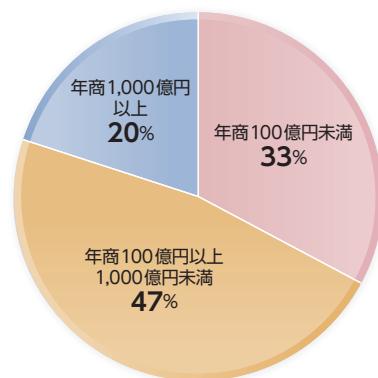
当中間連結会計期間(2019年4月1日～2019年9月30日) (単位:百万円)

| | 純資産合計 |
|-----------------------------|---------|
| 2019年4月1日残高 | 218,476 |
| 中間連結会計期間中の変動額 | |
| 剰余金の配当 | △ 6,893 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 19,147 |
| 株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の変動額(純額) | 652 |
| 中間連結会計期間中の変動額合計 | 12,906 |
| 2019年9月30日残高 | 231,382 |

販売先情報(業種別)



販売先情報(規模別)



会社概況 (2019年9月30日現在)

| | |
|--------|---|
| 社名 | 株式会社オービック |
| 設立 | 1968年4月8日 |
| 資本金 | 191億7,880万円 |
| 社員数 | 2,107名(連結) |
| 主要事業 | システムインテグレーション事業 システムサポート事業 オフィスオートメーション事業 |
| 事業所 | 東京本社 大阪本社 横浜支店 名古屋支店 京都支店 福岡支店 北関東支店 松本営業所 静岡営業所 広島営業所 |
| グループ会社 | 株式会社オービックオフィスオートメーション 株式会社オービックビジネスコンサルタント 他2社 |

役員 (2019年9月30日現在)

| | |
|---------|--------|
| 代表取締役会長 | 野田 順弘 |
| 代表取締役社長 | 橘 昇一 |
| 常務取締役 | 川西 篤 |
| 取締役相談役 | 野田 みづき |
| 取締役 | 藤本 隆夫 |
| 取締役 | 井田 秀史 |
| 取締役 | 上野 剛光 |
| 社外取締役 | 五味 康昌 |
| 社外取締役 | 江尻 隆 |
| 常勤監査役 | 小屋町 朗 |
| 社外監査役 | 坂和 章平 |
| 社外監査役 | 長尾 謙太 |

株式の状況 (2019年9月30日現在)

| | |
|---------------------------|--------------|
| ●発行可能株式総数 | 398,400,000株 |
| ●発行済株式の総数 | 99,600,000株 |
| ●株主数 | 4,421名 |
| ●外国人持株数 | 36,375,519株 |
| ●少数特定者持株数 | 58,805,837株 |
| ●浮動株数 (1単元以上50単元未満の合計) | 1,733,619株 |
| ●投資信託株数 | 5,405,400株 |
| ●年金信託株数 | 903,600株 |

●大株主

| 株主名 | 持株数 (千株) | 持株比率 (%) |
|---|-------------|-------------|
| 株式会社ノダ・マネジメント | 16,909 | 19.00 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 | 8,959 | 10.07 |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社 | 6,524 | 7.33 |
| ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505223 | 3,621 | 4.07 |
| 野田 順弘 | 2,881 | 3.23 |
| 野田 みづき | 2,781 | 3.12 |
| エスエスピーティーシー クライア ント オムニバス アカウント | 2,318 | 2.60 |
| ジェーピー モルガン チェース バンク 385632 | 2,276 | 2.55 |
| チエース ノミニズリ ジヤステック トリー ティー クライアント アカウント ジエネラル | 1,787 | 2.00 |
| 資産管理サービス信託銀行株式会社 | 1,347 | 1.51 |

(注) 1.当社の所有する自己株式10,649千株は、上記の表には含めておりません。
2.上記信託銀行の所有株式数には、信託業務に係る株式を含んでおります。
3.持株比率は、自己株式を控除して計算しております。

株主メモ

| | |
|------------------------|---|
| 事業年度 | 毎年4月1日から翌年3月31日まで |
| 期末配当金受領株主 確定日 | 毎年3月31日 |
| 中間配当金受領株主 確定日 | 毎年9月30日 |
| 定時株主総会 | 毎年6月 |
| 株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 |
| 同連絡先 | 東京都府中市日鋼町1-1 TEL 0120-232-711(フリーダイヤル) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 |
| 上場証券取引所 | 東京証券取引所 |
| 公告方法 | 電子公告により行う 公告掲載 URL http://www.obic.co.jp |

「オービックシーガルズ」が見事に3連覇！ 6月17日 パールボウル(東日本社会人選手権)

当社が2003年からスポンサーしている日本社会人アメリカンフットボールリーグ(通称Xリーグ)のオービックシーガルズが、6月17日東京ドームで行われた「第41回パールボウル(決勝戦)」(東日本社会人選手権)で、IBM BigBlueに勝利。3年連続8度目の優勝に輝きました。日本一を目指す同チームに、引き続きご声援をお願いいたします。



photo by ©小林 靖

7月に名古屋、9月に東京で開催 「オービック・スペシャル・コンサート2019」

文化・芸術支援活動の一環として2005年からお届けしている「オービック・スペシャル・コンサート」。今回は、7月26日の名古屋に次いで9月11日には東京・サントリーホールにおいて「コバケンの名曲の花束～哀愁のスペイン～」を開催。

小林研一郎氏指揮による、カルメン組曲、アランフェス協奏曲などの名曲が満員の客席を魅了しました。





photo by ©DAISUKE KOHNO

株式会社 **オービック**

Web サイト www.obic.co.jp

東京…〒104-8328 東京都中央区京橋 2-4-15

大阪…〒541-0059 大阪市中央区博労町 3-5-1 (御堂筋グランタワー)

TEL 03-3245-6500

TEL 06-6245-3231